

ルカの福音書 第12章 55節

「南風が吹きだすと、『暑い日になるぞ』と言い、事実そのとおりになります。」

梅雨入り直前の空には面白い現象が見られます。朝方には空一杯に雲が広がり、陽の光はどこからももれていない。今にも雨が落ちてきそうな曇天とは、まさにこのような天気のことでしょう。そのうち、南風が吹き始めます。かなり強めの風です。強い風に煽られそれまで厚く空を覆っていた雲は流れ、散り始めます。やがて陽の光が輝き始め、雲の居場所が隅の方に移動します。

雲と風と陽光が描き出す、梅雨入り直前の空模様です。やがて、降り止むことを知らない梅雨の季節が来ます。例年より早めに到来しそうな雨期に備える時間はあまりなさそうです。それでも、雲の流れ、風の向きを捉える者は備えに怠りはありません。風向きが教えます。

風のことを話イエスは今の時代を見分けることを問います。風は霊とも訳すことができます。今の時代に吹く霊を知るなら、今がどのような時代であるのか見分けがつくはずだといわれているようです。今の時代といわれる、「時代」は特別な時期をさします。霊が吹いている「時代」であり「終わりの時代」です。イエスの支配「御国」が拡大し完成に向かってている好機な時代です。